

星の花が降るころに

私が選んだ物語の描写ベスト3

場面の展開に沿って、心情・情景描写を捉える

学習のねらい

- 場面の展開や登場人物などの描写に着目して、作品を読み深める。
- 登場人物のものの見方や感じ方について自分の考えをもつ。

学習の流れ（全5時間）

第1次（1時間） 作品を読み、設定をつかむ。

- ① 全文を通読し、場面や登場人物の関係を整理する。A B

第2次（2時間） 作品の展開に沿って、読みを深める。

- ① 漢字フラッシュカードで本文中の漢字の読みを確認する。C
- ② 物語全体の内容を確認する。D
- ③ 「私」の気持ちの変化が表れている心情描写や情景描写について話し合う。E F

第3次（2時間） 続き話を創作する。

- ① 続き話の設定を決める。
- ② 物語の設定や心情描写の工夫を生かし、400～800字程度で続き話を創作し、読み合う。

「国語デジタル教科書」活用の具体例

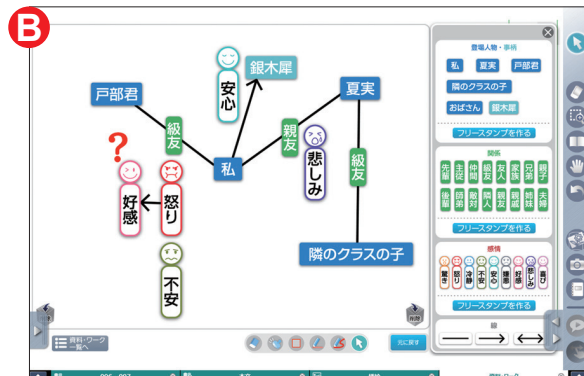
第1次① 全文を通読し、場面や登場人物の関係を整理する。



教科書画面：
マーカー・場面分け表示

まず、デジタル教科書の朗読機能を使って全文を通読した。その後、作品の場面展開を捉えるために、それぞれの場面の設定（時間がわかる表現、場所、登場人物）を作品中から探していった。教科書画面（A）を示しながら、それらの設定がわかる表現を色分けして整理していった。

その後、登場人物の関係を読み取り、整理する学習に取り組んだ。まず、作品中の全ての登場人物を改めてノートに書き出していった。この物語は主人公である「私」の視点から語られていることを確認し、「登場人物の関係を整理しよう」（B）のスタンプを参考に、ノートに人物相関図を書く活動に取り組み、その後画面上で全員で確認していった。



資料・ワーク：
「登場人物の関係を整理しよう」

生徒の反応 人物相関図をもとに議論

人物相関図を書く活動では、「私」の気持ちについて、想像の余地があり、生徒の間で解釈が分かれて興味深い展開となった。特に「私」の戸部君に対する気持ちについて、意見が分かれて活発に議論をする様子が見られた。

第2次② 物語全体の内容を確認する。

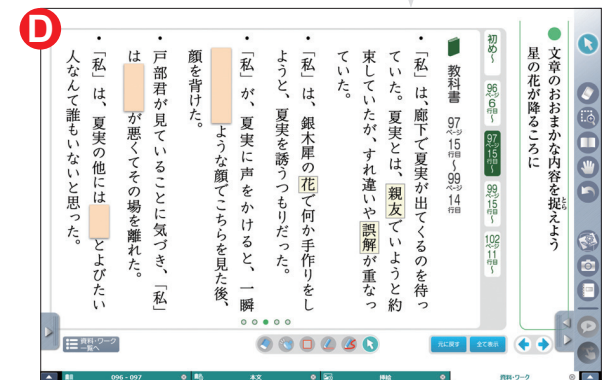


資料・ワーク：
「漢字のフラッシュカード」

ウォーミングアップで漢字フラッシュカード（C）を用いて読みの練習を行った。全員で声をそろえて読み、学習に向かう姿勢を作っていた。

その後、もう一度本文を通読し、「文章のおおまかな内容を捉えよう」（D）であらすじを確認した。デジタル教科書収録の印刷・配付用のPDFを配り、個人で取り組んだ後、全員で内容の確認をした。全員が内容をしっかりと確認したうえで、深い読みへとつなげることができるように配慮した。

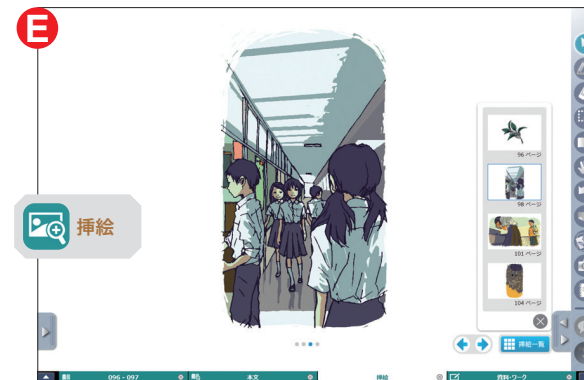
資料・ワーク：
「文章のおおまかな内容を捉えよう」



生徒の反応 声に出して漢字を覚える

フラッシュカードの取り組みは習慣化しているので、元気づく声を出しながら漢字の練習に取り組むことができた。実際に応じて手応えのある漢字を入れるなどの工夫もできる。「文章のおおまかな内容を捉えよう」も、一読すれば内容をつかむことができるので、作品の基本的な内容について読み取れたという自信をもたせることができた。

第2次③ 「私」の気持ちの変化が表れている心情描写や情景描写について話し合う。



「私」の気持ちの変化を捉えることがメインの課題となる。まず、おおまかな変化を押さえるために、挿絵（E）を用い、各場面での「私」の状況と気持ちを想像した。

その後、「黒板ツール」（F）を使い、心情描写や会話文、情景描写や暗示的、象徴的な表現から類推して、より深く、「私」の心情の変化をたどっていくようにした。その中で、特に気になる表現を3つ選ばせ、話し合わせた。



資料・ワーク：
「本文を抜き出して、読みを深めよう」（黒板ツール）

生徒の反応 「黒板ツール」で発言をフォロー

生徒の発表に対して、即座に「黒板ツール」で表現を抜き出して示すことができたことが効果的だった。発表者は意欲的に発言でき、聞き手も集中して聞くことができ、結果として、話し合いが活性化された。

国語デジタル教科書
を活用した感想

挿絵や教科書画面などのビジュアル機能は、全員で情報を共有するために有効だった。特に登場人物の関係を整理する活動では話し合いが盛り上がり、作品を学級で楽しく読み進めることができた。